

会 議 報 告 書	
会 議 名	令和6年度 第1回草津市社会教育委員会会議
日 時	自 10時00分 令和6年8月27日(火) 至 12時00分
場 所	草津市役所8階 大会議室
出 席 者	委 員：四方委員、川中委員、木戸脇委員、柴原委員、茶木委員、 駒村委員、中村委員、奥井委員、岡田委員、香川委員、 羽仁委員、出呂町委員、山崎委員、則武委員、望月委員 事務局：藤田教育長、岸本部長、菊池理事、安藤総括副部長、 学校教育課 西田課長、北島ESDアドバイザー、 生涯学習課 古川課長、山田課長補佐、河合主事、平塚主事 傍 聴 人：0名
会議関係書類	<input checked="" type="checkbox"/> 有 (別添のとおり) <input type="checkbox"/> 無

## 1 教育長挨拶

### 【教育長】

皆様、おはようございます。教育長の藤田でございます。第1回社会教育委員会開催にあたりまして、一言御挨拶を申し述べます。

皆様方には、日頃から本社の教育行政の推進に格別の御支援、また御協力を賜りまして誠にありがとうございます。また、今回は社会教育委員への御就任につきましても快くお引き受けをいただきまして、重ねて感謝申し上げます。

さて、本市では全国に先駆けまして、平成10年度から学社融合の考えに立ちまして、学校、家庭、地域がそれぞれの教育的機能を生かしながら、子どもと大人が地域文化や現代的課題などについて学び合い、また、人との繋がりや関わりを深める地域協働合校の推進に取り組んでまいりました。学校では、これまで事業などに地域の皆様が参画いただくケースが非常に多くございましたが、これまでのその繋がりを活用いたしまして、令和4年度からは子どもたちが地域の課題を学ぶとともに、その課題解決に主体的に関わって、実際に子どもたちが地域で行動したり、また発信することによって、将来持続可能な社会を作る人としての力をつけていただくとともに、地域社会の一員として将来の地域活動の担い手育成にもつながりますスクールESDくさつを、モデル校を中心に取り組みを展開しているところでございます。そして、今年度からは全ての小中学校に拡大をして、その取り組みを各学校で始めていただいているところでもございます。

一方、地域での地域協働合校につきましては、地域の大人の皆さまにより様々な体験活

動や交流活動の企画をいただいております。子どもたちにとっては貴重な体験が得られる場として大変重要な役割を果たしていただいております。しかし、地域を取り巻く状況は、少子高齢化が進み、また核家族化による地域コミュニティの担い手不足は全国的な課題になっておりまして、この人口増加をしている草津市におきましても同様に担い手問題は大きな課題になっているところでございます。また、子どもたちを取り巻く環境も昨年にこども基本法が施行されたことによって、大きく転換時期を迎えたところでございます。

こういった中で、地域における地域協働合校はこれまでの成果もしっかり大切にしながら、貴重な体験の場だけではなく自ら考え行動する人材育成を目的に、将来を見据えた担い手作りや、また地域づくりにつながるような地域協働合校のあり方を議論する時期ではないかと考えているところでございます。そういった観点から、この社会教育委員会議におきましては、委員の皆様から任期の2年間、それぞれの立場での豊かな御経験や御見識に基づきまして、忌憚のない御意見を賜りまして、この社会教育委員会議が、有意な議論が展開されることを、大いに期待を申し上げまして、開会にあたりましての御挨拶とさせていただきます。これから2年間、どうぞよろしくお願い申し上げます。

---

## 2 各委員挨拶【資料1】

---

### 【事務局】

委員 15 名中 15 名出席で半数以上出席、公開原則、傍聴なし  
資料確認  
各委員挨拶  
事務局紹介

---

## 3 委員長および副委員長選任

---

### 【事務局】

(事務局一任の声により、委員長に四方委員、副委員長に川中委員を選出)

### 【委員長】

委員長になりました、四方でございます。

実は私は、2012年から4年ほど社会教育委員をさせていただきまして、後半の2年は委員長を務めたので2回目になります。前回学んだことは、社会教育はなんでもありなんだ、婚活の支援まで社会教育になるんだということを学んだ4年間でしたけれども、そんな私でよければ、ぜひ務めさせていただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

---

#### 4 社会教育委員について【資料2】

---

##### 【事務局】

(資料2 説明)

---

#### 5 議事

---

##### 1) 今期の社会教育委員会議のテーマについて 【資料3-1～3-4】

---

##### 【事務局】

(資料3-1～3-4 説明)

---

##### 議事1)の質疑応答

---

##### 【委員長】

今期の社会教育委員会議のテーマですけれども、今後の地域協働合校の展開についてというテーマで2年間させていただきたいというところです。地域における地域協働合校の成果と課題を整理して今後どうやっていくかということ、今後のあり方について検討していくのがこの2年のやるべきことです。

今事務局から説明いただいたことに関わっての質問でも結構ですし、地域協働合校に実際関わっておられる委員もおられるかと思えますし、なにか御意見、御質問等もしあれば出していただけたらと思っておりますが、いかがでしょうか。

##### 【事務局】

議論に入ってください前に、補足させていただきたいと思えます。先ほど資料の説明をさせていただいた中で、資料3-1の左側、下半分あたりで、社会情勢の変化に対して地域協働合校の対応が学校や地域でこういうことになっている、そのために、その視点として、地域においての地域の担い手作りや持続可能な地域づくりを目指していく必要がある、そこから、めあてとして今後の地域における地域協働合校の成果と課題を整理するであるということなどを記載させていただいております。

##### 【委員長】

基本的なことを聞きたいんですけども、1つ目は、地域コーディネーターはどういう方になっておられて、どういう風に地域コーディネーターを見つけて、なっただいているのかというあたりを簡単に説明いただけたらと思えます。

##### 【事務局】

地域コーディネーターに関しましては、元教員の方やPTAの役員、民生児童委員さんなどがなっておられることが多くあります。学校長が推薦していただいた方を教育委員会の方で委嘱しております。

##### 【委員長】

地域コーディネーターの方の確保は割とスムーズに行っているのか、実はなり手がなく

て厳しいとか。もうちょっと率直なところ、聞かせていただければと思いますが。

#### 【B 委員】

松原中の教員です。各学校、基本的には1名のコーディネーターについていただいております。その方は学校や地域に非常に顔の広い方が多いと思うのですが、地域とかを繋いでいただく、あるいは学校の中に入り込んでいただいて、職員と一緒に取り組みを進めている状況であります。本校におきましては、ずっとおひとりでやっていただいていたのですが、6月1日からコーディネーターのお知り合いの方で、地域に顔をきく方がおられましたので、教育委員会にお願いをして委嘱していただいたというような流れです。松原中学校には小学校区が2つあります。当然、各小学校区から1名ずつ上がってきていただいた方ははるかに機能的です。例えばコーディネーターがもう一人増えてからの方が、学校のホームページの閲覧数が倍増いたしました。6月までは多くても1日に500くらいの閲覧数だったのですが、それがもう一人ついていただいたおかげで1000を超える日があり、かなりホームページだけでも、保護者だけではなくて地域の方にも見ていただいて、学校の様子を知っていただく機会になっています。

#### 【C 委員】

学校から見た時に求める、地域コーディネーターに一番持っていてほしい要素はどういったところですか？例えば地域に顔がきくというのも、いろんな基礎を知っているとか、地域のいろんな資源を知っていて直接繋いでくれたりとか、こういった部分が重視されているのかなと思ひまして。

#### 【B 委員】

元々おられる地域コーディネーターは教育に携わっていた方で、市の教育委員も経験された方で、教育の内容をかなり熟知されている方です。それから、本校はリーフレットにも掲載されていますが、農業を主体にこの事業を進めましたので、そういう点で農家さんとすごく繋がりがあったりとか、たくさん人間関係を構築されている方ですね。

#### 【A 委員】

草津第二小学校の教員です。私は今校長4年目にして、2年前までは南笠東小学校で勤務させていただいておりました。その時に、G委員に南笠東小学校でコーディネーターとして大変お世話になったのですが、民生委員もされていて地域のまちづくりの方にも携わっておられたりとか、あと、例えば独居でお住まいの方で、昔されていたお仕事を生かして学校でボランティアみたいなことをしていただけないかというようなことも考えていただいたことを思い出しております。それは本当に非常に素晴らしい取り組みだったなという風に思っています。

また、草津第二小学校は、御存知のように、駅前のマンションの多い学区ですが、そこで今、地域コーディネーターをしてくださっている方も、まちづくりの中にも参画されていて、まちと学校をつなぐ役割をしてくださると同時に、草津第二小学校の特性で、いろんな事業所、商店さんとか、企業さんとかがありますので、そういったところで子どもた

ちが体験をさせていただくにあたってすごい突破力で、いろんな事業所と学校と繋いでくださる、そういうコーディネーターもしてくださっています。

ですから、学校の実性によってコーディネーターさんの役割も少しずつ違ふのかなと思ひますが、どの方も私が今まで経験した中では非常に素晴らしい動きをしてくださっています。

#### 【委員長】

ありがとうございます。今お名前があがりましたが、地域コーディネーターをやる中での御苦勞ですとか、あと経験等についてちょっとお話いただいてもよろしいですか。

#### 【G委員】

まず私は学校運営委員会に長い間入らせていただひいて、どういふ風にしていこうかということをお話しておりました。やっぱりもっともっと地域と結び付けて子どもを育てていかないといけないとか、地域の方に学校に入つていただく。昔は勝手に門開けて来たで、子どもと遊びに来たでっていうような時代だったのに、今はしっかり門が閉められて、わしら行かれへんやんか、子どもらを見たことないわっていう方が、たくさんおられた。それから、民生委員の立場から高齢者の方とかを拝見している時に、もっとなんかやることないかっていうことと、こんなことできねんで、というようにことだったり色々なことを思つておられる方。そういう方を子どもたちにも繋げていく。それは子どもたちにも学んでもらいたいし、反対に地域の方が子どもたちを見守つてあげてほしい。自分らのちょっと得意と好きな分野でよければお手伝ひしますみたいな感じの人はいらっしやったので、そういう方にもっともっと学校を知つてもらふ。また、学校の子どもたちもこれから大きくなつていくうちに、自分の南笠東学区が1番よかつたなつて、また住みたいわつて思えるような地域を子どもたちが作つていってほしいし、子どもたちが今の地域で何が手伝えるか、何を盛り上げていけるかっていうことを大事にしなあかんのちゃうかっていう話をさしてもらつた時に、ええんちゃうそれみたいな感じで言つていただひいて、地域の中でできる方、ボランティアの方をどんどん集めていこうと思つて。あんまりボランティアこんなやりますからどうぞ参加してくださいみたいな感じで募集じゃなくて、今度こんなやりますとかっていうことから、誰か来てもらえませんかみたいな、口コミみたいな形で入つていったんです。そんな形で、やるやる、行く行くみたいな地域の方が多くて、今は年間2000人ぐらいの方が来ていただひいて。南笠東学区は他の学校と違つて、田んぼもないし畑もないし、昔ながらの大きなお寺や神社もないっていう新しいところなので、そんな中で、他の学区はこんなやりました、盛り上がつてますみたいな感じなんですけど、各学校で違ふことを、違ふような良さを発見しながら、地域の方で社会に出ていくためにいろいろなことを勉強できる、そういうシステムが作れたらいいなつていう風にも思つています。また夏休み終わつて、今は先生たちとこんなやってみましようかみたいな形の授業とか、そういうことに関してじゃあこうしましよう、じゃあ地域でこんな人探してみましようかというような話し合ひをしながら進められているので、昔からある地域協働学校の

事業とかってというのは大切にしなければならないものは、それをずっと踏襲していくって  
いうことだし、新しいことを何か考えていくって新しい社会の人材のお招きして、い  
ろんなことができたらいいなって風には私は思っています。

#### 【D 委員】

最初の資料2を拝見していると、子どもという表現が他のところにも出てくると思うので  
すが、一体どこから子どもという風に表現されていて、対象年齢みたいなものってあるん  
でしょうか。どうしても地域協働合校っていうことになる、学校と家庭と地域というこ  
とで小学生以上なのかと思うんですけども、幼稚園っていう記載もあるし、家庭教育にお  
いては保護者支援という記載あるので、もしイメージする子どもってというのがどの辺りな  
のかなってというのがあれば教えていただきたいです。

#### 【事務局】

子どもと書かせていただいているのは学齢期という風に思っています。現状、実施して  
いただいている地域協働合校が小学校、中学校、未就学児と、子どもについての事業が多  
く、実際今回考えさせていただこうと考えているのが、今までは大人と子どもと一緒に活  
動や事業等をやっていたらってことで考えていて、それは協働してという話をさせ  
ていただいている中で、特に大人が実際に色々なスキルを持っている。でも、子どもたち、  
特に小学校とかの子たちはスキルをあまり持っていない、中学生、大学、高校生とかも、  
大人の力を借りなければできないこともあるであろうって話の中で、中学生、高校生  
と一緒に子どもたちと参画してほしい、さらに巻き込んで事業等をできひんかっていう話  
の中で、小中高生、それぐらいまでって風には考えているところです。

#### 【委員長】

子どもが何歳から何歳までかというのは法律によっても違うんですけども、今回は地  
域協働合校がテーマなので、今ちょっと高校生って話もあったんですけども基本は  
小学生、中学生と考えたらいいですかね。

#### 【事務局】

社会教育としては全年齢ってことで、赤ちゃんから大人までと捉えていただいでい  
いかと思います。地域協働合校も、地域で行われているものに関しては子どもだけでは対  
象ということではなく、この大人とか未就学の子も当然含んでくる中で、高校生とか大学  
生、現役世代の方も入ってくる。学校でやっている部分で、小学校、中学校、地域協働合  
校事業として進めているってこともありますので、小中学生を中心に学校ではやって  
いるという風に捉えていただいたらと思います。

#### 【K 委員】

ご質問ですが、草津市がやっておられる地域協働合校と、よく言われるコミュニティ・  
スクールの大きな違いはどこなのかを教えていただきたいのが1つ。以前いた職場で、地  
域に開かれた学校は大事ということはよく言っていたんですけど、そんな時に家に寝に

帰るだけの働き人間が、どう学校に関われるかという話をしていた時に、学校図書館って大事よねという話になった覚えがあります。先ほど学校の門がしっかり閉まっていて、というお話があったんですけど、草津市には市立図書館が2つあって小中学校も含めて20校に学校図書館があったとしたら、この学校図書館に例えば地域の人たちも行けるような仕組みがあると、そういう人たちがそれをきっかけにして、学校ってどんなところやと興味を沸く、ちなみに私、子どもがいないので学校にもあまり行ったことがなくて、地域の行事にも参加できていないのですが、そんな人はどうすれば学校に向かえるのかなって、1つ思っていました。あと、家に寝に帰るだけの働く人の役割というか、学校や地域に気持ちを結びつけるための取り組みっていうのは何があるのかなとちょっと悩ましく思ったところです。以上、3点です。

#### 【事務局】

地域協働校とコミュニティ・スクールの違いっていうところですけども、コミュニティ・スクールは学校運営協議会の仕組みことです。こちらに関しては、保護者と地域の学習経験者と教員が運営する組織でなり立っていて、学校運営を計画してPDCAサイクルでまわしていくっていう形です。地域協働校に関しては、幅広い層の地域住民や団体に緩やかなネットワークを形成し、地域コーディネーターさん等を入れながら実際に事業を実施していく。地域協働校のリーフレットにコミュニティ・スクールと地域学校協働活動の関係という風には書いてあるんですけども、学校運営に関するところ、それと地域協働校に関して、学校の教育活動といったところを学校、地域、家庭で検査しながら実際やっていきそれを運用させていく方向でやっています。

2点目については学校図書館を例に出していただきましたが、学校に地域の人が気軽に入れればということだと思えるんですけども、現状どなたでもっていうわけにはいかないかと思えるんですけども、事前にこういう方が来られるという風に分かっていたりとか、学校安全上のことも考えながら。学校に協力していただいている中で、例えば登録をしていただいているような方が入っていただけるとか、そういう風な運用を現場ではしているのではないかなと思います。あと、現役の世代を例えば地域とか地域活動や学校に結び付ける取り組みについてですが、これについてはなかなか現役世代が忙しいので、なかなかいい手がないというか、これからの課題であるし、ボランティアの工夫としては、例えばボランティアをお願いする業務を細分化したりとか、従事していただく時間を短い時間でやってみて、気軽にこの時間だったら参加できるよという人に参加してもらえるようにするとか、そういった工夫はしているところではございます。これについては依然課題かなと思っております。

#### 【B委員】

小中学校では学校公開週間と言って、今週は学校公開しますよということをやっています。今自分の中でやりたいなと思っていることがあって、まさしくK委員おっしゃったように、学校の図書室やどこかの部屋をカフェにしたいなと思っていて、地域の人誰でも結

構です、いつでもここで休憩してくださいというような空間があったらいいなとずっと思っています。ただ、事務局がおっしゃったように安全上の課題があるんですよ。それはなかなかクリアできませんけど、いろんな時にいろんな方が廊下歩いているみたいなね、イメージをしています。

**【委員長】**

なかなか子どもが通っているとかでない、その地域の人でも学校に行きにくいという現状が多分あると思うんですよ。だから、おそらく地域協働合校でもある種関わっている人は継続してこれまで関わっていて新規の人がなかなか入りにくいというか。そんな空気はおそらくあるのかなという風には思いますし、その中でこれまでちょっと学校とうまく関わってない人たちも関わってくれるような仕組みみたいなものっていうのは多分考えていかないといけないかなと思って、非常に重要な意見かなと思って聞いていました。

**【副委員長】**

事務局ではなく委員の皆さんから教えていただきたいことがあります。

まずは地域の動きについてです。C委員からお答えください。地域の活動の課題は今日の説明でも触れられていましたが、逆に草津では今こういう新しい動きや可能性がどのように見えているのでしょうか。このような新しい傾向がある、このような活動がある、そうした動向についてです。市民活動や地域活動は脱組織化の動きが見られており、組織に所属してメンバーシップを持って活動するのではなく、非常に緩やかなネットワークで活動していく人々が増えているとされています。私が住んでいる尼崎でも個人単位で興味深い活動に関わっている人が大勢おられます。こども・若者に関わることに関心を寄せる人は意外におられます。そうした人々は、地域づくりとしても教育活動しても資源となります。そのあたり、草津の実情をC委員から答えていただきたくお願いいたします。先ほど、K委員も「ちょっと関わってみたい」という意思表示がなされたと思います。そうした人が関わる仕組みがあれば、「担い手がない」のではなくて「いるんだけど入れない」という仕組みのあり方を巡る課題になります。先ほどカフェを学校に設けるという面白い取り組みの提案もありましたけれども、そこで出会った人とある程度の信頼関係ができれば、色々な活動に繋げていくことも考えられることでしょう。

次に、学校現場についてです。今日のご説明でも地域協働合校の取り組みは、小中学校であれば「総合的な学習の時間」、高校であれば「総合的な探究の時間」や学校設定科目といった枠組みの中で多分展開されることが多いでしょう。しかし、おそらく現場からすれば、「そうは言われても…」と思われるところもあるでしょう。もうすでに色々やらなければならないことがあるということもあるでしょう。その意味で、ボトルネックと思われるものが何なのかを、B委員とA委員から学校教育現場の視点で教えていただけますでしょうか。意欲のある先生が頑張っているだけでは広がりには欠けることでしょう。先生方の実際に寄り添いながら今後の展開を考える必要があると思われま。

最後に、M委員へお訊ねします。立命館大学サービスラーニングセンターで学生コーデ

イネーターとして活動されているということを伺いました。それでは若者の視点から見てどういったプログラムデザインであれば——具体的に言えばこういう経験があれば——地域にもっと関わっていくのではないかと、持続可能な地域づくりを目指す力となっていくのではないかとお考えでしょうか。現在、色々なプログラムを実行されたり、あるいは参加されたりする中で、この辺りが大切ではないかと見いだされている視点を教えていただけますでしょうか。他の委員の方々からも、「実は現場ではこのあたりに困ってるんや」という課題を教えていただけるのでしょうか。現状認識を1回目で作る必要があるでしょう。また、「この視点が抜けてるんじゃないか」というご指摘もお聞かせください。例えば、BBSの方からしたら「こういう人に入ってもらった方がええんちゃうか」と思われることもあるのではないのでしょうか。

### 【C委員】

草津市では14小学校区に、地域まちづくり協議会という組織があります。主にソフト面で地域経営が展開されています。そこでも地域協働合校に関わってやっていますけれども、K委員がおっしゃったように寝に帰る人にも、実は学校だけじゃなく地域もぜひ関わってほしいと思っています。けれども、なかなかその言い手が出てこないというのが現状で、特に高齢化って言うんですけども、若い人たちは関わるきっかけがないというところがあって。

最近地域の方でも緩やかなネットワークはキーワードになってきていて。地域まちづくり協議会で言いますと、どうしても子どもの育成部会とか健康の部会とか、いわゆる部会制で、団体がずっと同じことを大切にさせていただいているけれども、それだけではなかなか若い人たちが関わるきっかけがない。もっと言えば、若い人たちが自分がやりたいなっていることをやれるっていう、地域の受け皿的になっていかなければいけないなっていうところがちらほらと出てきましてですね。その部会制をちょっとずつプロジェクト制みたいな形に切り替えて、手上げ方式で、こんなことやってみたいんだけどっていうのがあったら、仲間集めてもって実際やってもら。それにまちづくり協議会がお金や人、場所、広報などでお手伝いをするというところがいくつか出てきているなっていうのが、実感としてまず1つあります。

あと、それ以外の、例えばまちづくり協議会の事業として、明らかに若い人たちをターゲットにした、やってみたい時に助成金をつけて、実践してもら。それをそのまままちづくり協議会の事業にさせてもらって、その人も一緒に関わってもらって、若い人たちに関わってもらってというきっかけ作りっていうのをしているまちづくり協議会さんが結構出てきたっていうのが今の感じ。ポイントは、本当にやりたいことをやらはるし、そこがあんまり強制力がないというか、自然とまちづくり協議会のことに関わっていかんという感じが1つポイントかなという風に思ってます。

あと、立命館大学にはたくさんサークルがあるんやけどもコロナなんかで学生さんが活動機会がだいぶ減ってしまったっていうのがあって。でも、地域と関わりたいと思っ

てくれている人も結構いらっしゃったんですけど、なかなか繋ぎ目がなかなか見つけられへんっていうのがあったので、コミュニティ事業団の学生企画の一環で地域まちづくり協議会と学生サークルさんのマッチング会、お見合い会みたいなことを3年、4年前からしています。まちづくり協議会もすごい心待ちになってくれてはるような状態になっています。学生コーディネーターさんも、そんなきっかけで地域の方で企画地域のお祭りの企画委員に入ってくれよとか、そんな感じで結んで、そのきっかけがなかなかないっていうのは、1つ課題としてあったのかなと学生さんに関しては感じています。

#### 【A 委員】

スクールESDのパフレットを資料として置いていただいているんですが、その中で、令和5年度のモデル校の松原中学校、老上小学校、常盤小学校では2年間積み上げて来られた実績がありますし、令和6年度からスタートした学校が追いかけている感じではあるんですが、学校のこの大きい話と言いますか、教育のあり方と言いますか、同じ学年の子どもたちはみんな同じカリキュラムを学習するという中で、子どもたちが社会課題について気づいて、調べたりまとめたりして、提案して、行動して、発信するという学びのサイクルがまだまだ慣れていないところがあります。社会課題に気付くということから育てていけないといけないということが現状あると思います。うちの学校も1学年100名ほどおりますので、なかなかその中で子どもたち1人1人がどんな社会課題に気付けるのかっていうところを引き出す学びのあり方っていうものは今後研究していきたいと思っています。ただ、うちの学校の子たちも自分たちが活躍する場面を作ってほしい。こんなとこで自分たちの力を出してもらいたいっていう、静かなエネルギーを持つてるとするのは日頃から感じていまして。特別活動の中で1年生に喜んでもらう会をしようとなると、進んでうちの学校のマスコットキャラクターの着ぐるみを着るとか、意欲のある子たちがたくさんいますので、それを学習の場面でどんな風に引き出していくのかっていうことが1つ大きな課題だなという風に思っています。

話をちょっとそれますが、先ほど、地域の方をどんな風に巻き込んでいくかというアイデアの1つで、地域の学区のまちづくり協議会が出してくださっている広報誌に、学校がボランティアの募集をかけたとかかしているんです。なかなかそれを御覧になって応募してくださる方は少ないんですけども、広げていけると良いなという風に思っています。

#### 【B 委員】

本校はモデル校をやらせていただいて、今年度で3年目ということですけど、モデルの1年目はほぼ何もできなかったと思います。実際3学年が形作られて、やり始めたのは去年です。今、担当者と毎日のようにいろいろ話す中で、1年生がフードロス、食の残を減らすためにはどういうことをやっていくべきかという辺りを中心に学習をします。2年生は、ファーストリテイリング社がやっておられる、服を難民キャンプに送るという取り組みが、昨年段ボールを市内に15か所置かせていただいて、それを学校の子どもたち全員が梱包して送り届けるというこの活動は日本一になりました。3年生は修学旅行の行き先

に課題を持っていくんですけど、行き先の課題を見つけて、それをどうやったら解決できるかなということを帰ってきてからまたいろいろ考えるという。それに並行して、3学年が校内に作った畑で、地元の名産であるベジクサを栽培しながら、流通とかいろんなことを一緒に考えるということをやっています。今担当者が悩んでいるのが、3年スパンでもうやること決めてしまうのが本当にいいのかなというところではなくて、その間に教員の出入りがあって、教員のそもそものESDの目的がだんだんぼやけてきてる、やれと言われてるからやってるといような雰囲気も出つつあるので、いったん今年度でもう崩してまた一からやらなあかんのかなというような課題があります。報道を色々こう使わせていただきながら、新聞、テレビ、いろいろ出させていただくと、すごくいい好評、地域の方からも頑張ってるねって言われるんですけど、内情はもういろんな問題があって、いい面ばかりでは決してない。もっと言うと、教員が同じ方向きかというところ、なかなかそうはいかないとか。生徒会の子どもたちは非常に中心にやって頑張ってますが、全校500人足らずのみんながみんな、ほんまにやってんのかと言われてたら、まだまだですから。もうそういうあたりが課題いっぱいあります。

#### 【M 委員】

先ほど聞いていただいた、大学生が参加するにはどういうことが必要かっていうところなんですけど、最近私が気づいたことって言うので言わせていただくんですけど、大学生にとって、参加することでどういった学びが得られるかっていうのが大学生が参加することに対して必要なことだと思っていて、子どもが学ぶっていうだけじゃなくて、その子どもが学ぶことを通して大学生が学ぶこともたくさんあるんですね。そういったことを、発信であったり伝える。どういった学びがあるのか、自分にとってどういったメリットがあるのかっていうのを知ることがまずできてないと思います。私たちは今、Instagramを通して大学生に発信しているんですけど、それでもまだ足りない状況だと思っているので、学校の方ではさっき広報誌を通して発信しているっていうことでしたけども、大学生としても大学の中で広報を配るとか、いろんなことができるのかなと思いました。

#### 【F 委員】

他の学区のことよくわからないんですが、私が住んでいる玉川学区のことをお話しさせていただきますと思います。玉川学区というのは、遺跡と萩の育む玉川まちづくり推進会議という名前もある通り、歴史のある地域です。それと、南草津駅前なので、新しいマンションの方とか、すごく古い歴史と新しいところが入り混じったところ、そこへ立命館大学やパナソニックなど企業もたくさんあるところなんです。学校の方も企業さんや立命館大学の学生さんたちをできるだけ取り込んで、協働して学習を進めていかれるっていう地域です。まちづくり協議会の方といたしましてもその中で文化教育部会という部会がありまして、その中のこども体験合校という事業があります。私もそこに携わっていたんですけども、例えば学校の方で地域の方と一緒に稲刈りをする。ところが、以前はその後みんな餅つきをしたりとかしてたんですけども、今は授業数のこととかでなかなか難しい

ので、できないことをこども体験合校の方でもちつき大会をします。その時には、もちろんその部会員さんだけはなかなかできませんので、地域の方にお手伝いをしてもらいます。あとは立命館大学の中にサークルが色々あるんです。例えば立命館大学のライフサイエンスサークルなどに来てもらって子どもたちと触れ合いをしてもらうとか、それから、今こちらのBBS会のH委員にも来てもらっていて、BBS会の寺子屋なんですけれども、月1回だけ土曜日に子どもたちを集めて遊んでもらったりとか、できるだけその若い人を取り組むようには考えています。問題としては、だんだん地域の方の年齢が高齢になってきますので、それをどうして持続可能に次の世代に繋げていくというのが今1番課題です。ありがたいことに、今立命館大学の学生さんたちがちょっとずつボランティアとかと中に入ってきていただいて、できることは続けていくという風な形を小学校でも取られていますし、地域でもできるだけ若い方たちの意見を聞いて進めていく。

萩まつりという小学校、中学校、地域の人が集まって大きなお祭りがあるんです。1番多くて2500人3000人ぐらい集まるような大きなお祭りで、長年実行委員をさせていただいていたんですけども、コロナで様子が変わってきて、だんだんもう縮小になってきたんですけども、昔は30ぐらいテントを張ったんです。学校の校庭にたくさんのテントを張らないといけないので地域の方々にボランティアで来てもらって、各町内会からボランティアの方を出していただいています。そうすると、働いておられる方でもたまたま役員だから仕方なく出てきていただきます。出てこられるとやっぱり楽しいんですね。来てみたら地域の方とコミュニケーションが取れるとか、こんな面白いことがあったんやと。それと、まちづくり協議会のとことか各町内会、各種団体からも出てもらうんですけど、それも全部が全部やりたいって言って思ってきてはる人ばかりではないんですね。そして、その1年間、役員になった方はそこで働かなければいけないので、そういう時にやっぱりコミュニケーションができて、例えばこども体験合校なんかでは、町内会とか、もちろんお子さんはいらぬ方も当たってきて、1年間もしてます。初めはすごく嫌がっておられるんです。何をやるんやろうとか。でも、1年間一緒にいろんな子どもたちと触れ合いをしているうちに、こんな楽しいことがあるんやったらもっと協力したいわって言われて、そのままボランティアに残られる方もおられます。とりあえず今は、高齢化が1番の課題で、どうしてそれを続けていくか。その時に、若い力の立命館大学の学生さんや中学生の子を取り込んで、例えば萩まつりの1つの計画や模擬店を出してもらおうとか、色々ちょっとそういう風に考えてはいます。ただ、どうやって続けていくとかが難しい。どこの学区も一緒だと思うんですけど、熱心な高齢者の方々がそれぞれかかわっていかれるので、それをいかにして子どもたちのため、未来のために進めていくのかってところが問題だと思うのと、あと、ボランティアに関しては少しずつ公募したりとかしていくような考え方もあります。ただ、ちょっと今この時代ですので、誰も彼もいうのはちょっと難しいので、やはりその辺は気を付けていかない点があると思います。

それと、どこの学校もされてると思いますが、学校の方では地域方をゲストティーチャ

ーとして地域の中で活動されてる方を呼ばれています。私もゲストティーチャーに行ったりしてるんですけども、そういう方にちょっとずつ地域の方から学校の中に入ってもらう。それもコーディネーターの方のお仕事になるかもしれませんが、結構地域の方、玉川小学校とか来られるので、その中で話が出てくるので、それをピックアップして、ただ今年度から、今までは子どもたちが与えられてることばかりだったんですが、今度はお返しをする、地域で自分たちがどのような立場で行ったらいいかということを考える時に来てるなという話が出ています。

#### 【H 委員】

先ほどあった文化教育部会さんであったりとか、そういったところにBBS会としても、参加させていただいてるんですけども、その活動の中でも、ライフサイエンスだったりとか、大学生でも学ぶことが多くて、僕らも学びながら子どもたちと関われるのが結構楽しいなっているので、僕らもそういう活動はどんどん参加していきたいと思っています。そういう活動に参加したいと思ってる学生とかもいるんですけども、団体に入っていないと、なかなか参加できなかつたりとかして、僕の知り合いの中でも、元々1人で活動をしていたんだけどやっぱり身元がわからないとどうしてもお断りされるケースが多くて。どうしてもやっぱり最初の身元がわからないと、入っていけないってところがあるので、そういうところの人たちが入る仕組みがあればいいなと思ったりもします。

あと、学生としての立場なんですけども、BBS会は元々、立命館大学のサークルとして学生が入会して、その人たちが草津市BBS会員として地域のボランティアに参加するという形なんですけども、ボランティアサークルとしての勧誘があって、それが4月の新入生が入った時期に限定されてて、それ以外の中で勧誘がないんです。最初の機会を逃しちゃうと、興味があるんだけど行きづらいつて思う人がいたりするので、そういう人たちが活動に参加する機会があつたりとか、活動を知れる機会があつたらいいなと思います。

#### 【委員長】

あと残り時間もわずかですので、反時計回りで順番に一言ずつもらいたと思います。

#### 【I 委員】

皆さんの話を聞いてて、私自身は自分が小さい時も地域の行事とかは忙しくて参加する親じゃなかったの、そのまま私も大人になって同じようにあまり地域の行事に子どもと一緒に参加したりしようっていう休日の過ごし方とかをしてきてなかったです。今年、PTA会長になって、こういう会議や学校の先生や、たくさんの方のお話とか聞かせていただく中で、本当に子どものこととか、親のことでも、皆さんで本当に考えていただいて、すごいたくさんのことをしてくださってるんだなっていうのを気づけたので、自分としてもよかったなと思います。役員になったから行かなあかんとか、役員になったからこの手伝い行かなあかんっていうのが、やっぱりちょっと全然そこは拭えないところがあるんですけど。でも、さっきおっしゃっていたような、役員だからとかじゃなくて、緩やかなネットワークっておっしゃっていたんですけど、学校のPTA活動とかにおいても役員にな

りたくないっていう方がすごいたくさんいるので、いろんな授業、学校の中の活動とかももっと敷居を低くして出てきてもらって、それぞれが楽しんで負担なく子どもと地域の方と一緒に色々取り組めたら、もっとそれがこう口コミとかで伝わって行って、じゃあ来年は私もそれ言ってみようかなみたいな保護者同士の繋がりとかでどンドン、いい風に成長していけたらいいなとちょっと思いました。皆さんと一緒に色々考えていけたらいいなと思うので、またお願いします。

#### 【J 委員】

I 委員とは違って、私、結構子どもと一緒に連れて地域の活動に参加していて、それでは達成できなかったのが、この地域協働合校の冊子の右下に地域の地域協働合校の方で宿泊体験とかわんぱくとか書いてあるんですけど、全部実行委員をした時に宿泊体験、学校の体育館を借りて宿泊体験とかもやっていました。その時に子どもたちと一緒にやっていて子どもも地域の人が頑張っている姿と一緒に見てきたんで、子どもは中学とか高校生になってもボランティアとしてすごい地域の中で活動させていただきました。でも大学生ぐらいになると、今の大学生ってすごいそがしくて、お勉強もすごいしっかりしないとなかなか大学生活をできなくて、地域の中に入っていけなくなってしまった。その仕組みをもうちょっとここで一緒に考えていけたらいいなってすごく感じております。

あと、B 委員が先ほどお話されていて、私は実は、小中学校の学校運営協議会の委員と今年から中学校のコーディネーターをさせていただいて、B 委員みたいに積極的に色々なテーマとかお考えを持って、カフェができたらいいなとかっていう、そういう発想をお持ちの教員の方もいらっしゃると思いました。学校運営協議会とかをやっていた時はそこまでは感じなかったんですけど、実際中学によく行かせていただいて先生とお話をしていると、やっぱり先生によって熱量がすごく違うので、自分がどのテンションでどこまで入って行っていいかなっていうのを今すごく悩んでいて。多分今年1年間はその松原中学校みたいな素晴らしいことはできなくて、1年間自分の中で自分の立ち位置を考えながら活動していかなあかんかなっていうのをすごく思っています。

#### 【L 委員】

色々とお話いただきまして、ありがとうございます。今回のテーマ設定のところ、もう少し教えてほしいことがありまして。今回本当にいろんなお立場の方だとか、御経験のある方が集まっておられて、私自身いろんなお話が聞けて勉強になるなど今思ってるどころなんですけれども。今回社会教育委員として2年間活動させていただくということで、すごく色々学べるなど思ってるんですが。資料3-1の目当てのところにある地域協働合校の課題を整理し、というところで色々状況を調査するんだなっていうところがあるんですけど、今後の事業展開でめあてのところを検討するって書いてあるんですけど今後がいつかなっていうこと、検討するのが目当てなのか、というところを教えてくださいなと思います。検討した結果、いつ頃のなにかに、多分一番いいのは現場に役立つようなことになったらいいなとすごく思うので、この検討した結果、現場に役立つようなこの

ルートというか、どういう風に現場に生かしてるのかなってというのが分かれば、会議にどういう気持ちで取り組んだらいいのかなってというのがもうちょっと明確になるかなと思うので、ちょっとその辺り、もう少し教えてもらえたらなと思います。

#### 【事務局】

めあての部分、今後がいつかっていうことなんですけども、地域の地域協働合校について長年やってきたんですけども、ブラッシュアップを図っていきたいという中で、今回この2年間でどういった方策でやっていったらうまくやっていけるだろうとか、そういったヒントをいただきながら、こういうやり方ができるんじゃないかっていう取りまとめを報告書っていう形でまとめたいと思います。私どもの視点としては、その報告書をまとめていただいたものを元にその2年以降、令和6年度、7年度で検討しますので8年度以降にはなりますが、各地域で行っていただいている地域協働合校について、具体的なこういう風なアプローチができるんじゃないかっていうようなことを、体制や事業の面で、そういったことを色々考えながら、実際の活動は各地域の方に御提案とかもさせていただきながら、一緒に変えていくことができたらなと今思ってるところでございます。

#### 【L委員】

ありがとうございます。私自身まだまだ知らないことあるんですけども、次に活かせるような視点で色々アンテナを張りながら取り組んでいきたいと思います。ありがとうございます。

#### 【E委員】

私も参加するのは好きなんですけども、なかなか協力してもらう人がなかなか少ないと思っています。青少年で今長いことやらしてもらって、後継ぎがなかなかできないんですね。若い人をお願いするとやっぱり仕事が大変やいうことでなかなかできないんですけども、先ほどから、ボランティアを募ってもなかなか参加してくれる人ができないっていうのが、実際にやってもらうとそれなりにやっぱり楽しいことがあったりすると思うんですけども、この地域協働合校が始まった頃から私も青少年に関わってましたんで、先ほども出てたように一泊合宿式のをやったり、わんぱくに参加させてもらったりしているんですけども、逆にスタッフがおってもクラブとかをやっていると参加する子どもが少なくなっている。常盤学区は全校生徒で280前後と子どもが少なくなかなか参加してくれないんで、子どもが少ない時は学童保育の方に協力してもらって、参加する人を調整したりして色々やらせてもらってるんですけども、たまたま若い人をお願いしても、コロナの関係とかいろんなことでなかなか協力してもらえないということで、できたらこの地域協働合校もまた続けてやっていきたいと思いますし、また私も協力していきたいと思いますので、よろしくをお願いします。

#### 【委員長】

ありがとうございました。初回ということでぎっくばらんに出していただきましたけれども、30年近く追求を続けてこられた地域協働合校の今後に向けてというところで、な

かなかこれまで参加できていない地域の方とどうやって、緩やかなネットワークっていう言葉もございましたけれども、どうやって緩やかにつないでいくかというところとか、スクールE S Dプロジェクトも始まっていますけど、地域協働合校自体が持続可能な形態にもっと持っていけないとっていうところでは、そういうこれまでなかなかちょっと参加できてない層をどうやって繋いでいくかっていうことは課題かなという風に聞いておりました。色々御意見、御質問等出していただいたというところで、閉じさせていただきたいと思います。

---

## 6 その他

---

### 【事務局】

(各審議会への委員の推薦依頼)

(2回目の審議会について説明)

---

閉会

---

### 【事務局】

閉会挨拶